

関係団体ヒアリング結果のまとめ

1 分野別の意見

	理解と交流	生活支援	保健・医療	教育・生涯学習	雇用・就業	生活環境	情報アクセシビリティ	安全・安心	差別の解消・権利擁護
坂出市身体障がい者団体連合会	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口や相談員を増やしてほしい 指導者の育成, 会員減少の問題 ボランティア活動に参加するのに移動が困難である 個人情報保護法の問題 メリットがないと加入しないと思うのでメリットを生むために予算の増額 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者に対する理解 金銭的な支援, 収入の安定 	<ul style="list-style-type: none"> 等級によって無料化の違いがあるので, 幅を広げてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 一般の障がい者が自由に利用できるスポーツ施設, 娯楽施設を希望する 足に障がいを持つ人のために, 靴を脱がずに利用できる施設を提供してほしい 広い駐車場をもつ施設を提供してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 「障害者雇用促進法」の厳守, 障がい者雇用率の達成 能力がある人でも障がい者というだけでそれを発揮する場がないので, 雇用の際に, 健常者と同じように扱ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の拡幅とバリアフリー化を希望 	<ul style="list-style-type: none"> 団体から団体未加入の個人に対しての情報提供の仕方 団体未加入の障がい者の個人情報の提供について, 団体には公開してもよいというような特別な措置を講じてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしの障がい者の緊急時の連絡方法の確立 障がい者独自の安全安心の見回りネットワークの確立 民生委員は障がい者のことを把握していると思うので, 個人情報の開示も含めて協力してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 「障害者差別解消法」について, 違反者に対する罰則を設けるなどして厳しくしてほしい
坂出市手をつなぐ育成会	<ul style="list-style-type: none"> 連絡が行き届かない⇒発信する側, 受け取る側がうまくかみ合っていない 主催する側の障がい者への理解ができていないため, どのように声をかけていいかわかっていない 地域の理解が必要(行政がもう少し働きかけてほしい) 私たちだけでは理解を求めるのも限度がある 障がいについての正しい知識がない状態でのボランティアはトラブルにつながっている 正しい知識を伝えるところは誰なのか, どこなのか明確にしてほしい 障がい者に対する遠慮がある 	<ul style="list-style-type: none"> どこに相談に行けばいいかわからない (ヘルパーが)障がいの状況(自閉症 or ダウン症 or 知的)を理解できておらず, ヘルパーとのトラブルにつながっている 	<ul style="list-style-type: none"> 薬を処方してもらっただけの場所になっているように思う(病院に行っても問題解決に至らない) 病歴等, 県内で情報共有できるネットワークが必要 医療, 教育, 療育が繋がっていない 	<ul style="list-style-type: none"> 全てが個の活動になっている 3障がいのつながるイベントがあればよい まなとピアはなぜなくなったのか 障がい者が主体となって活動できる行事がない 	<ul style="list-style-type: none"> ハローワーク, 事業主の理解・努力が必要ではないか ジョブコーチの育成 事業主とそこで働く人たちの障がいに対する理解, また事業主側の相談するところがない 	<ul style="list-style-type: none"> 地域によるサービスの緩和 利用者が利用しやすいサービスにしてほしい 障がい者が遊べるプレイルームなどがあればよい(障がい者を理解できるモデルケースがあるとわかりやすいのでは) 	<ul style="list-style-type: none"> 広報の中で, どこが障がい者に対する情報かわからない(どこに問い合わせればよいかもわからない) 障がい者向けの情報をインターネットで配信しては(例えばQRコードで情報収集できるように) 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の情報開示が必要 	<ul style="list-style-type: none"> お互いに理解するしかないと思う
精神障害者家族会連合会	<ul style="list-style-type: none"> 精神障がいについて, ①差別がある:特に差別が大きい ②偏見がある:理解していないで怖がる。近寄ろうとしない ③本人が病識を持たない:自分で病気と認識しないでも ④ひきこもり:人と触れ合おうとしない 	<ul style="list-style-type: none"> この情報をすべて知らせることは大変だと思う 若竹会でも新施設を建てたが, みんなに知ってもらうには自分で足を運ばなければならぬことを痛切に感じている 自分で努力し, 自分で動かなければならないと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 精神の場合は障がい区分1級が大変少ない。1級の人には本当に弱い人なので, しっかり守ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> いま私たちは私たちの会で展覧会を開いている。自分たちの分野で自分たちの力で頑張っているのでも, お力添えをお願いしたい 絵を描くということが障がい者にとっての励みであり生きがいでもある 	<ul style="list-style-type: none"> みんなと同じ場で働くことの困難さがある。病状にもよるし, その人の力にふさわしい働きが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 一般の人と同等の行動をとれる人は良いが, 車いすを使う人たちにとってボランティアタクシー等の利用を図ってもらえると助かる 循環バスのルート延長, コマンドタクシーの利用も図ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 私たちに対する情報は困難である。情報が手に入りやすい方法を市としてはかってほしい インターネットで検索しても, 制度が市町村ごとに異なっており, わかりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所, 行動等により良い周知をはっきりしてほしい 避難所の物資(寝具など)が整備されていないのでしてほしい いざというときにすぐに動けるように避難訓練の実施を行政から促してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 各分野で差別のない, 同じ立場で対応していただけるようにしてほしい
NPO 法人 中讃聴覚障害者協会							<ul style="list-style-type: none"> 手話が要ります 	<ul style="list-style-type: none"> 聞こえないので, 情報不足になる 災害の時, すぐに手話通訳者を派遣してほしい 文字で表示してくれないとわからない 避難所に聞こえない人がいるかもしれないと思って対応してほしい 	

	理解と交流	生活支援	保健・医療	教育・生涯学習	雇用・就業	生活環境	情報アクセシビリティ	安全・安心	差別の解消・権利擁護
地域活動支援センターわかたけ (ピアサポーターの会)	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の理解が不足しており、理解・啓発の促進が必要 ・地域、家族、職場での偏見・差別が後を絶たない ・市・地域活動支援センター等との積極的な連携、継続した取組みが必要 ・自治会等での障がい者の置かれた実態を説明する ・市は地域の行事の案内等情報を施設にも送付する ・趣味として農業をしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス・制度の内容を知らない、利用の仕方がわかっていない人が多い ・地活の利用登録が市によっては2重登録できない ・プログラム用の書籍・DVD・ゲーム等の用具の購入費が少ない(内々の問題かも) ・市は広報等で地域活動支援センターに関する情報を取り上げ、市民に存在、役割、利用の仕方等を周知する ・利用登録が一市町に限られるのはなぜ?他施設の活動状況を見て、参加したい地活が利用できるようにする ・地活も登録者に限らず家族の相談を積極的に受ける ・地活の職員研修を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関に対して不満を持っている人が多い ・目を見て診察をしない ・院内で虐待行為とみられるものがある ・身体・知的に比べて精神は通院が困難 ・精神の場合、時間外や救急の受入をしてくれない ・病院内の精神科に対して他科の理解が不足している ・PSW が受診同行できるとよい ・当事者の声を聴く機会を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術活動の発表の場、スポーツの各種大会等の機会が少ない ・自己肯定を感じ、体験できる場、芸術活動発表の場を増やす ・生涯学習でも障がいを理解する講座があればよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般就労の場合長続きしない ・皆と同じだけの仕事ができない ・雇用責任者の理解があっても、同じ仕事をする仲間が知らず、理解が得られないため離職となるケースがある ・いろいろな人の関わりで問題に取り組む ・オープンの場合、同僚にもある範囲以内は障がいを伝えて理解を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動タクシー等の料金が安い、コミュニティバスの運行範囲と回数が少ない ・精神障害者保健福祉手帳では、JR、バス等の割引がない ・地活に通所したくても、交通手段がないため利用できない人がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の入手が困難 ・市報を地活にも配布してほしい ・スマホの使い方について教室があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等の緊急の場合は時間や既往歴に関係なく施設に受け入れられる ・防災、火災時の避難訓練 ・避難所に障がいに応じた専門職の職員を配置する ・民生委員との連携を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・無知が故の差別がある ・当事者の訴えが病気として扱われる ・病気を正しく理解してもらえるよう、各種集会で話す機会を設ける ・当事者の発言をしつかり聴く ・事件性にならないように、日頃の対応の必要性を考える

2 障がい者支援活動や坂出市の施策について

	障がい者支援活動の問題点や課題			坂出市の福祉施策について	
	活動上の問題点や改善すべき課題	これから力を入れていきたい活動	行政に対する要望	重点的に取り組むべき課題	計画策定への意見
坂出市身体障がい者団体連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・新規会員増加の難しさ ・指導者、役員の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種障がい者団体の横のつながり ・会員増強と助成金の増額 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事に参加するための移動方法の確立、整備 ・他の団体とのつながりの橋渡し(民生、自治会、婦人会、地区社協等) ・障がいをもち市の職員やその家族に団体に加入していただき、将来的には指導者として引っ張ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者に対する理解を深めるための研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者のための計画であるということを念頭に置いて計画してほしい ・各委員が積極的に発言してほしい
坂出市手をつなぐ育成会	<ul style="list-style-type: none"> ・会員不足なので、会員の増員 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動 ・外部に向けての発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動のサポート支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、地域、各種団体のネットワークが必要 ・障がい者に関してはふくし課、医療に関しては医師会が核となればよいと思う 	
精神障害者家族会連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの団体で会員が減少している ・会活動の活力がほしい。人材の育成を図ってほしい ・コロナ禍も相まって、周囲に頼りづらい環境になっている。それにより他団体との連携も難しい状況となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会活動が力をなくしている。高齢化による弱体化 ・若い人たちの家族会への意識が希薄である。気に入らなければすぐに他の家族会へ移ってしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政で力を入れて会の発展を後押ししてほしい ・発展し、団体が楽しい場所になれば人も集まると思う。また、楽しい場所であることが広まれば、中々踏み出せずにいる人の踏み出すきっかけになると思う ・色々なところに標識や標示を増やしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で支援体制を充実し、坂出市において、どの地域にいても同じような支援を受けられるように統一したものにしてほしい 	
NPO 法人 中讃聴覚障害者協会			<ul style="list-style-type: none"> ・手話言語条例の制定 		
地域活動支援センターわかたけ (ピアサポーターの会)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職や職員の質の向上を図る ・研修の持ち方を工夫する ・気軽に相談できる人、場所等を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある当事者中心の活動を幅広く行う ・個人で体験できない事の実施(ピアサポート、運動・文化・娯楽など) ・カルガモの会(家族対象) ・相談の受け入れ(日中を問わず夜間の相談等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算(活動を展開していく上で必要な物品や場所の利用料など) ・人件費のアップ(経験年数や能力に応じたのアップ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の内容もさることながら、当事者を含めた福祉プランを進めていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは障がい者計画作成において、当事者抜きのプランではなく、当事者の意見を反映したプランを作成していただきたい